

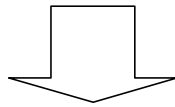
小中連携教育



小中連携教育の必要性

思春期を迎える小学校高学年から中学校にかけては、心身の成長や変化が一生のうちで、最も大きな時期であるとともに、精神的に不安定な時期でもあります。そこで、小学校から中学校の間にある段差を適切なものとし、それを乗り越えるために、小中学校が互いに連携をとった教育を進めることが重要となります。

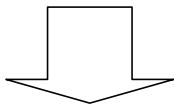
小中連携教育を推進することで、「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を一層はぐくむことができます。



小中連携教育を進めるために

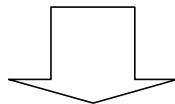
児童生徒が望ましい学校生活を送るためには、小中学校の教師が互いに生徒指導面あるいは学習面での情報を共有し合い、共に児童生徒を育てていこうとする意識をもつことが出発点となります。また、児童生徒が共に活動し、体験を共有する機会を意図的、計画的につくることによって、児童生徒の人間関係づくりを促すことが大切です。そして、それぞれの学校の現状を生かした具体的な方法によって連携し、9年間を見通した教育課程を実践可能な範囲で編成することが望まれます。

小中連携教育の方策 三つの視点



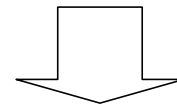
学ぶ意欲を高める交流

- ・ 中学校教師による出前授業
- ・ 小、中合同授業
- ・ 中学生の作品等の学習成果の活用
- ・ 職員相互の授業参観による指導法の工夫
- ・ 学力テスト等の分析と改善についての協議



豊かな心をはぐくむ交流

- ・ 小・中合同授業
- ・ 母校ボランティア訪問
- ・ 手紙による交流
- ・ 小・中連携教育の広報
- ・ 合同ボランティア（地区清掃活動、あいさつ運動、施設訪問）
- ・ 福祉体験活動



夢のある進路を実現する交流

- ・ 先生との出会い
- ・ 先輩との出会い
- ・ 同級生との出会い
（小・小合同授業、里山米作り活動、学校説明会、部活動見学会）
- ・ 吹奏楽部の出前演奏会
- ・ 小学校保護者へ授業公開
- ・ 中学校だよりの掲示

小 中 連 携 教 育 の 実 践

守谷市立大井沢小学校 担当 関根京子

1 はじめに

小中連携の必要性が指摘されるようになって久しい。小中連携の必要性が強く叫ばれる背景には、中1進学時に学習面でつまずく生徒が多く見られるという問題がある。

御所ヶ丘中学校区（御所ヶ丘中学校、御所ヶ丘小学校、松前台小学校、大井沢小学校）では、平成15年度より小学校と中学校の交流を進めてきた。平成17年度、18年度には「共に進める小中連携教育推進事業」の指定を受け、小学校と中学校の連携を図った教育を実践してきた。指定以降も実践を重ね、今年度も小中連携教育を継続的に行っている。中学校と小学校の連携をより深め、「夢と希望」をもって、中学校に進学し、豊かな心をもって中学校の3年間を過ごし、次のステップに繋がることができればと考え、本実践に取り組んでいる。その実践例を以下に述べる。

2 実践（御所ヶ丘中学校との交流・3小学校との交流）

（1）中学校の先生による出前授業

ア 理科…7月（6年）

アルギン酸ナトリウムを塩化カルシウム水溶液の中に入れると一瞬でゲル状になるという化学反応の学習のひとつを「人工いくらを作ってみよう」と題した授業で行っていただいた。みんな「楽しかった」「理科ってふしぎ！」などという感想をもち、いきいきしていた。



イ 算数…12月（5年）

5年生3クラスを対象に、「三平方の定理」の学習を小学生用にアレンジしていただいた子どもたちにとって興味のある授業をしていただいた。教室とオープンスペースを使って楽しく学習した。

全体学習から個人学習への授業形態に子どもたちも引き込まれていた。



（2）小中合同授業（吹奏楽部による演奏会）…6月（全校児童）

御所ヶ丘中学校吹奏楽部による演奏会が開催された。楽器の紹介をしてくれたり曲の紹介を分かりやすく説明してくれたり、素晴らしい演奏と共に工夫された構成であった。

ぬいぐるみを使った指揮者に子どもたちも興味津々。どの曲にも、子どもたちは真剣に聴き入っていた。楽器の紹介の時にも、興味深げにしている様子がみられた。

また、吹奏楽部の生徒たちの挨拶や返事、態度が素晴らしく、小学生の良き手本となった。



(3) 母校ボランティア（里帰りの会）…11月

卒業生が母校に戻って、下級生と交流を図るという実践を重ねている。1, 2年生と6年生との交流を図った。1, 2年生とは、算数のかけ算九九を聞いたり、まるをつけたりという学習ボランティアを実施。6年生とは、学習や生活の様子、部活動など、中学校の様子を伝える交流会を実施した。どちらも子どもたちには好評で、継続していきたいと思っている。

小学生も中学生も少し緊張した面持ちであったが、共に一生懸命に取り組んでいた。1, 2年生は、中学生のお兄さん、お姉さんに勉強を教えていただけるとあった、いつもより張り切って取り組んでいた。6年生は、中学校の様子を聞くことができ、今までいっていた不安も解消されたようであった。



1年生の計算問題を教えてもらっている様子



小学生、中学生が10人程度のグループに分かれ話を聞いている様子

(4) 入学説明会・部活動見学

生徒会役員による学校紹介や部活動見学を行った。実際に中学校に行き、学習や生活の様子を聞いたり部活動見学をしたりすることにより、今までわからなかったことがわかったり、不安だったことが解消したりした様子であった。より一層、中学校への進学が楽しみになった子どもたちも多かった。

(5) 里山における3校連携の米作り

毎年、御所ヶ丘小学校、松前台小学校、大井沢小学校の5年生が合同で、立沢里山での米作り体験を行っている。立沢里山の方々の協力により、田植えや稲刈りの仕方を丁寧に教えていただいた。田植えや稲刈りが初体験の子どもたちも多かったが、立沢里山の方々の手助けにより、楽しく活動することができた。

夏休みには、田の除草作業にもたくさん子どもたちが参加した。
収穫したお米は格別の味であったであろう。

3 考察

- (1) 出前授業を受けたり中学校に実際に行ったりすることによって、「中学校は楽しいところ」「夢が実現できるところ」という意識が6年生に芽生えてきた。小中連携の必要性を感じている。
- (2) 「中1ギャップ」が懸念されるなか、意識的に中学校や他の小学校との交流をもつことで、子どもたちは、小学校から中学校にスムーズに入学し、学べる基盤ができた。
- (3) 6年生と共に、1年生から5年生も小中連携事業に参加できたことは、大変有意義であった。低学年のうちから中学生に親しみをもって接することができていた。

4 課題

- (1) 6年生と中学1年生とともに、他学年と中学生との交流を深め、創意工夫のある交流活動を今後も進めていきたい。
- (2) 行事としての交流だけではなく、挨拶運動などの日常生活での交流なども図れるような工夫をしていきたい。

小中連携事業について

守谷市立大野小学校 担当 川村 重男

1 はじめに

本校では、平成21・22年度、守谷市教育研究会委嘱・守谷市教育委員会指定を受け、「社会を担う一員としての意欲と能力の向上をめざして」をテーマにキャリア教育の研究を進めてきた。義務教育9年間を通した児童生徒のキャリア発達を考えると、小中の連携はとても重要である。学習面・生活面の両面から、小中連携の在り方を再考し、迅速に、確実に実践していく重要性を感じている。本校児童の実態調査では、地域の人々の温かいまなざしに包まれて穏やかに育つプラス面に加え、「指示待ちで積極性に欠ける」、「自分の考えや思いを表現することが苦手である」といった課題が見えている。本校の教育目標である「生き生きと意欲的に活動する児童の育成」を実現するためにも、義務教育9カ年を視野に入れ、児童一人一人のキャリア発達の視点から中学校との接続を円滑に行うことが重要である。

2 実践計画

月 日	内 容
月例の教育課程研修会にて	小中連携会議 ・年間計画の作成、検討 ・守谷中学校区共通「家庭学習の手引き」の作成
7月15日(木)	守谷中学校見学会 ・授業と部活動の見学
10月28日(木)	守谷中学校区小中連携会議 ・守谷中学校区共通「家庭学習の手引き」の作成
11月 6日(土)	守谷中学校吹奏楽部による出前演奏 ・収穫祭の中でミニコンサートを実施
1月21日(金)	守谷中学校23年度入学予定者説明会 ・児童・保護者対象の説明会
2月 8日(火) 3月 3日(木)	小中連携会議 ・今年度の振り返りと次年度の展望
2月16日(水)	生徒指導研修会 ・生徒指導上の情報交換
3月24日(木)	小中連携会議 ・学習指導、生活指導上の情報交換と共通理解の推進

(1) 守谷中学校見学会・新入生説明会

平成20年度・21年度と、6年生が中学校へ行き、中学生と共に授業を体験したり部活動を見学したりする取り組みを行った。今年度も、6年生が守谷中学校を訪れて、授業と部活動を見学した。事後の感想では、実際に中学校の授業や部活動に触れ、進学への不安が少なくなった児童が多く見られた。専門的で生徒主体の授業、本格的な部活動に憧れ、中学校進学への希望がふくらんだことであろう。

(2) 守谷中学校吹奏楽部によるミニ・コンサート

収穫祭のオープニングセレモニーの中で守谷中学校の吹奏楽部にミニコンサートを行っていただいた。本物の演奏に触れ、制服姿で凛々しく活動する先輩達を見て、児童たちは、中学生への憧れを募らせていた。小学生向けに曲目を選んだり、指揮者体験コーナーを設けたり演目を工夫していただいたことで、聴衆(児童・保護者)の興味・関心が深まった。

(3) 守谷中学校区共通「家庭学習の手引き」の作成

児童生徒に確かな学力を保障するために、学習指導の小中連携が重要だと考え、守谷中学校区共通「家庭学習の手引き」の作成を行った。守谷中学校をキーステーションに、学習時間、学習内容、児童への働きかけ、保護者の理解促進などについて、教育課程研修会を中心に話し合いを進めてきた。6年生を対象に、作成した手引きを活用して家庭学習の指導を行った。次年度は家庭での学習習慣の更なる定着に努めたい。

3 考察

中学校の授業を見学したり、部活動で頑張っている先輩の姿を見たりすることで、進学への不安を軽減することができた。「中学校の学習は専門的で楽しそうだ。」「中学校に進学したらこんな部活に入りたい。」と進学を心待ちにしている児童が多い。

「家庭学習の手引き」の作成を通して、自主的に学習を進める習慣をつけることが、中1ギャップの予防に効果があることを実感している。義務教育9年間を通して、一人一人の児童生徒に自力学習の力をいかにつけていくのか。学力の保障という観点からの小中連携の在り方について、道が見えてきた。子どもたちにどんな力がついてきたのか、検証を行いながら連携を更に進めていきたい。

4 課題として残されていること

(1) 小学校から中学校へ向けて

中学生が小学校に出向いて活動していただいたり、授業の準備をして受け入れていただいたりする内容がほとんどである。小学校から中学校へ発信できることは何か、貢献できることは何かを検討して活動内容の改善を図りたい。

(2) 学習習慣定着の検証

小中連携で進めている家庭学習の指導の結果、児童生徒にどのような力がついてきたのかを検証し、「家庭学習の手引き」の内容、指導法の改善に生かす。

(3) キャリア発達の推進

児童一人一人のキャリア発達を見取り、継続的・系統的に発達を促していくことが重要だと考える。小学校段階でつけておく力、中学校段階で伸ばす力を「学習プログラムの枠組み」として明確にし、9年間を通したキャリア発達を支援する。



守谷中学校見学（7／15）



入学予定者説明会（1／21）

小中連携教育の実践

守谷市立高野小学校 担当 塚田 悟

1 はじめに

22年度の本校の進学状況は、約2割の児童が私立中への進学が内定しており、大半の児童は「けやき台中学校」へと進学する。小中連携教育では、児童と生徒が直に交流できる場を設定し、具体的な活動を通して中学校の様子が分かるように配慮している。これは、卒業を控えた6学年児童が、中学校生活への不安や悩みを軽減するためでもある。これからも児童一人ひとりが、大きな夢と希望を持って卒業・進学ができるように小中連携の取り組みをさらに強化し、充実させていきたい。

2 実践活動

(1) 小中合同あいさつ運動 ～マナーアップ推進事業から～

	第1回小中合同あいさつ運動	第2回小中合同あいさつ運動
日 時	6月14日(月) 朝 7:50～8:10	11月15日(月) 朝 7:50～8:10
場 所	高野小プール側の門付近	
参加者	中学生：生徒会役員、けや中職員 ※本校々長、生徒指導主事、登校班担当 小学生：児童会運営委員、ボランティア委員、担当の登校班	
内 容	中学生と共に登校時に校門付近であいさつ運動を行い、全児童へ積極的に声かけを行う。	



(2) けやき台中学校区小・中連絡会（生徒指導中学校区会を兼ねる）

ア 日時 6月17日(木) 14時30分

イ 内容

- ・授業参観 及び 連絡会
- ・参加者：旧6年担任（3名）、生徒指導主事

(3) 母校訪問ボランティア交流活動

ア 日時 11月12日(金) 5・6校時

イ 内容

《前半》卒業の中学校1年生が母校である本校を訪れ、6年生と一緒に「ボランティア清掃」を行う。

- ・校舎及び体育館周り、運動場、プール周りの落ち葉掃き
- ・各校門付近及び体育館内の清掃

《後半》卒業生の「中学校生活を語る」で、中学校生活の概略と部活動の紹介をグループ発表してもらい、相互の交流と親睦を図る。

(4) けやき台中学校・吹奏楽部の出前演奏会

ア 日時 7月 9日(金) 6校時

イ 会場 体育館

ウ 内容 ・中学生吹奏楽部が本校を訪問して演奏をし、本校児童が鑑賞する。
・参加学年： 4～6年生

エ その他

- ・吹奏楽の楽器輸送はトラックを使用する。
- ・始めの会や終わりの会を実施し、お礼の言葉を含む児童の感想発表等を行う。



(5) けやき台中学校・入学説明(並びに学校見学)会

ア 日時 1月21日(金) 14:00～16:00

イ 内容 ・小学校6年生が中学校に行き、学校紹介や部活動の見学を行う。
・新入生保護者対象の説明会と同時に実施する。

ウ その他

- ・終了後の下校は、地区毎に途中解散。3名の担任がコース毎に分かれて途中まで引率する。

3 成果

昨年度はインフルエンザ発生の為、小中連携交流会の機会は少なかったが、今年度は、すべて予定通りに実施することができた。特に、中学生の母校訪問で行った「清掃ボランティア活動」では、中学生が優しく小学生を導く姿が随所に見られた点が大変よかった。また、一人の中学生が清掃後に「あの時に綺麗にしておけばよかったなあ。」とポツリと言ったことが、今回の交流活動のすべてを物語っている気がする。

ア あいさつ運動について

中学生と一緒にあいさつ運動を行うことにより、地域の連帯意識が高まった。

後日には、より意欲的にあいさつをしようとする児童の姿が見られた。

イ 交流活動について

清掃ボランティア活動や交流会を通して、中学生の素晴らしさや人間的な優しさに触れることができた。

ウ 吹奏楽部出前演奏会、学校見学会について

中学校の生活や部活動の様子がよく分かり、それまで抱いていた不安や疑問を軽減することができた。同時に、中学校進学への興味や関心が高まった。

4 今後の課題

- ・交流活動の企画や運営面から具体的な内容や方法等について、工夫・改善を図り、さらにより良い取り組みができるようにする。
- ・小中間で行っている諸活動を、地域や保護者との連携も深めて実りあるものにする。

小中連携教育の実践

守谷市立守谷小学校 担当 中村 正行

1 はじめに

小中連携教育は、児童・生徒の交流活動を通して、小学校から中学校への移行期の指導がスムーズに行われ、「中１ギャップ」の克服や小中学校間の接続の円滑化を図ることをねらいとしている。

2 実践

活動名	実施日・場所	活 動 内 容
守谷中学区小 中連絡会	6月17日（木） 守谷中学校	・小学校職員による中学校の授業参観。 ・新入生の現況と申し送り。
愛宕中学区小 中連絡会	6月17日（木） 愛宕中学校	・小学校職員による中学校の授業参観。 ・新入生の現況と申し送り。
中学校説明会 （体験入学・ 部活動見学）	1月21日（金） 愛宕中学校 守谷中学校	・体育館において生徒会役員の進行で学校紹介、制服紹介等の説明を聞く。 ・グループに分かれ、愛宕中学生役員による案内で、1年生と2年生の授業を参観する。その後自由に部活動見学及び施設見学。

<守谷中学校と合同で、守谷駅におけるあいさつ運動>

昨年度から始まった活動として、11月13日（土）の県民の日に、守谷駅で朝のあいさつ運動を実施した。マナーアップ運動を兼ね、運営委員会の児童を中心に自主参加の児童も含めて約50名が参加した。守谷中学生と一緒に、7時30分から約1時間にわたり、守谷駅を利用する一般の方たちに「おはようございます」の声かけ運動を行った。児童達は「あいさつ日本一」などのたすきを掛け、大きな声であいさつ運動に取り組んだ。

参加した児童の感想

- ・恥ずかしかったが、慣れてくると大きな声であいさつが出来るようになった。
- ・笑顔であいさつを返してくれた人がいたときはとてもうれしかった。

- ・「えらいね」などと声をかけてもらい、あいさつ運動に参加してよかった。
- ・中学生と協力して、あいさつ運動を行うことができてよかった。
- ・あいさつを返してもらえないことも多くさびしかったので、自分ではしっかりあいさつを返そうと思った。



＜新入生説明会・授業参観・部活動見学＞



3 成果と課題

＜成果＞

- ・守谷中学生と合同であいさつ運動を実施できたことで、協同のボランティア活動などの事業を設ける機会ができ、中学生との親近感が生まれた。守谷中学校との交流が実施できたことは意義があった。
- ・新鮮な気持ちで進学への期待をもつことができた。学校の様子や先輩の様子を直接見たり感じたりすることができ、中学校の様子が分かったことで安心できた。
- ・生徒会の先輩がとても優しく、学校での服装や行事、部活動の様子、一生懸命活動する先輩の姿を知ることができた。

＜課題＞

- ・本校児童は約半数ずつ愛宕中学校と守谷中学校に進学する場合が多いので、児童に平等にいろいろな機会を設けていかなければならない。
- ・今年度は、「もりっ子学習発表会」では、中学校の吹奏楽部演奏を聞くことができずに残念だった。本校の全児童と中学校生徒との交流の場面と時間を増やしていきたい。
- ・学習における連携、特に外国語活動についての共通事項を確立していく必要がある。

小中連携教育の実践について

守谷市立黒内小学校 教諭 殿岡 秀一

1 はじめに

本校の児童は一部の児童を除きほとんどが守谷中学校へ進学する。中学校と小学校の連携・接続が円滑になることで、中1ギャップ等の溝を埋め、子どもたちの心の安定を図りより効率的な教育の成果が期待される。そこで、小学校中学校間の連携を密にして小学生が中学校の生活のようすや学習内容を知ったり雰囲気を感じたりできるように以下のような具体的な取り組みを実践した。

2 実践事業の実際

守谷中学校との小中連携事業

活動名	教科 領域	実施日 場 所	活 動 内 容
小中連携事業 準備会		教育課程研修会 の開催される日 (月に1回)	・大野小、黒内小、守谷中の教務主任により 情報の交換と小中連携事業の実施計画案を 作成する。
守谷中学校区 小中連絡協議 会		6 / 17 (木) 14:35 ~ 17 : 00 守谷中学校	・守谷中第1学年の授業参観を行った後、大 野小、黒内小の旧6学年関係職員と守谷中 第1学年職員による情報交換を行う。
小学生の中学 校生活体験	1・2・ 3年生 の授業 参観	7 / 15 (木) 13:20 ~ 16:30 守谷中学校	・6年生全員が帰りの用意をして、守谷中に 移動。 ・1, 2, 3年生の授業をグループで大野小 の児童と共に参観する。 ・大野小の児童と共に合同終わりの会を行 う。 ・グループに分かれ、守谷中学生会役員によ る部活動見学及び施設見学を行う。
守谷中吹奏楽 部による 演奏	特別活 動	10 / 30 (土) 黒内小学校	・黒内まつりの中で吹奏楽部によるミニコン サート鑑賞。吹奏楽部の演奏で黒内小学校 校歌を歌ったり、吹奏楽部を指揮させても らったりと参加しながらの鑑賞会を開催。
守谷中学校区 家庭学習の手 引き作成		10月～11月 (作成期間) 12 / 3 (金) (2学期末PTA) 12月第2週 (学級配付)	・守谷中学校作成の手引きから表紙絵や自主 学習の意義、学習時間等共通の内容を6年 生用として作成し配付した。さらに、2学 期末PTA懇談会で保護者に対して中学校 との連携を強調して作成の意図や使用上の 注意などを伝えた。

・新入生中学校説明会 ・メディア講習会	総合的な学習の時間	1 / 21 (金) 14 : 00 ~ 15 : 00 15:10 ~ 16 : 10 守谷中学校	・他小学校と生徒会役員による、守中学校の目標や生活のきまり・学習についての説明会に参加。 ・新入生と保護者共に、県メディア教育指導員による研修会に出席する。携帯電話・メール ・ネット上の掲示板の利便性や注意点・危険性、具体的な対応策について指導していただいた。
--	-----------	---	--

生徒会による新入生学校説明会の様子



土塔中央保育所との保小連携事業

土塔中央保育所の年長児と黒内小学校1年生が合同学習会を実施した。生活科「もうすぐ2年生（年長さんをむかえよう）」の単元（14時間扱い）で2学期と3学期に1回ずつ計4時間、学校紹介やプレゼント、ゲーム等を行い楽しく交流を図った。2学期の集会は、保・幼・小連絡協議会として授業を公開し、研究協議を行い活発な意見がなされた。



3 おわりに

本年度は中学校訪問が1学期に実施されたことで、6年生が早くから中学校生活を意識して活動することができた。また、家庭学習の手引きを中学校と連携しながら作成したことで、保護者にまで意識を広げることができたようである。今後は、生活のきまりの連携や授業交換による教師間の交流を図ることで、児童生徒、保護者、教師間相互の共通理解を図っていきたい。

小 中 連 携 教 育 の 実 践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 市村 正巳

1 はじめに

小中連携教育は、児童・生徒の交流活動を通して、小学校から中学校への移行期の指導がスムーズに行われ、「中1ギャップ」の克服や小中学校間の接続の円滑化を図ることをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、今年度も、児童に今まで以上に夢や希望をもって中学校に進学することができることを目標に取り組んできた。

2 実践

活 動 名	実施日・場所	活 動 内 容
中学校公開日 見学	6 / 1 終日 御所ヶ丘中学校	・中学校の学校公開日に、小学校の高学年の児童の保護者が授業参観し中学校の様子を見学した。
授業体験 (社会科)	6 / 2 4 御所ヶ丘中学校	・御所ヶ丘中学校に出向き、6年生児童が社会科(歴史)の授業を体験した。電子黒板を使用し児童は興味をもって授業に参加できた。また、中学校の教室での実施ということで、中学校の学習への関心もより高まった。
ごしょまつり	1 1 / 6 御所ヶ丘小学校	・小学校のごしょまつり(文化祭)に御所ヶ丘中学校の吹奏楽部に来ていただいて開会式で演奏をしていただき、児童と保護者で鑑賞した。場が盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができた。中学生としての活躍の場があることが認識でき、中学校生活への期待をふくらませることができた。
里帰り母校ボランティア	1 2 / 9 御所ヶ丘小学校	・本校卒業生と6年生で母校ボランティア活動を行った。前半は共同による作業。作業内容は、①トイレ掃除②花壇の整備③体育倉庫の整理。中学生と6年生が協力しながら作業を進めることができた。後半は体育館で中学校生活について質問形式で中学生から話を伺った。部活のことや校則のこと、テストのことなどたくさんの質問が出た。中学生が一生懸命に説明し、それを6年生が興味をもって聴いていた。終始和やかな雰囲気の中で行われた。最後に6年生がお礼の合奏演奏を披露した。昨年までいっしょに生活していた中学生との交流で中学校生活をより身近なものに感じる事ができたようである。

中学校新入生 保護者説明会	1 / 2 1 御所ヶ丘中学校	・ 6 年生と担任，保護者がいっしょに参加して行われた。体育館での説明後に，部活動見学が行われた。直接見て説明を聞き，部活動では体験をし中学校生活に希望がもてたようである。
授業体験 (国語)	2 / 1 8 御所ヶ丘小学校	・ 中学校の先生にきていただいて，6 年生が学級ごとに国語（漢文）の授業を受けた。わかりやすく丁寧に教えていただき，楽しく興味を持って授業に参加していた。ますます中学校の学習に期待を持ったようである。

※中学生が「総合的な学習の時間」でまとめたレポートの展示（4月～6月）



〔授業体験 6 / 2 4〕



〔中学校新入生保護者説明会〕
1 / 2 1



〔授業体験 2 / 1 8〕

3 成果

- ・ 出前授業や里帰り母校ボランティア等や新入生保護者説明会においてふれあう場を設け実践した結果，6 年生が中学校への関心や希望をより高めることがきた。また，中学校の学校公開日や新入生保護者説明会への参加を通じて，児童だけでなく保護者の中学校進学への不安感の軽減にもつながった。
- ・ 小学生にとっては中学生のお兄さんやお姉さんは全ての憧れであり目標である。その中学校の吹奏楽部の演奏を直接ごしょまつり（文化祭）で鑑賞することは，かなりの励みになっている。中学生の頼もしい姿を見て，いつか自分たちもあんな風になりたいという気持ちが育ってきている。
- ・ 里帰り母校ボランティアの活動では，昨年までいっしょに過ごした先輩方の成長した姿を見て，いっしょに活動しながら話をすることができたことで，中学校進学に対する不安も軽減した。また，中学生は久しぶりの小学校でお世話になった先生方に会うことで，ほっとしたようでもあった。中学生にとっても，心が和む時間となった。

4 課題

- ・ 小中連携事業が単なる交流ではなくて，中1ギャップの軽減や不登校生徒の減少，児童生徒の学ぶ意欲や豊かな心の育成につながっていかなくてはならない。今後は児童
- ・ 生徒だけの交流だけでなく職員同士の交流も図り，お互いの学校教育の理解に努めるなど，今後の小中連携事業の在り方を見直し工夫していく必要がある。

小中連携教育の実践

守谷市立郷州小学校 担当 笹本 恵美子

1 はじめに

本校では、学区である「愛宕中学校」との連携教育を進めている。主なものとして、金管バンド部（5，6年生の希望児童が参加）を通したもの、中学生の職場体験を通したもの等がある。本年度はさらに、学習面における連携も念頭におき、実践した。また、本校敷地に隣接する「みずき野幼稚園」とも、例年、交流を深める機会をもっている。

2 主な実践

（1）学習や生活のきまりについての情報交換と連携した「家庭学習の手引き」作成

- ① 愛宕中学校と本校の教務主任会における小中連携の打合せの中で、互いの学校の学習のきまりや生活のきまりについて、資料や情報を交換し合い、連携のとれた指導を行っていくことを確認した。
- ② 互いの学校の「教育委員会による訪問指導」の際に、職員を派遣し合い、授業の様子を参観した。
- ③ 上記①や②を参考にしながら、中学校との繋がりを考慮した「家庭学習の手引き」を作成し、全児童・全家庭に配付した。さらに、6年生の家庭には、愛宕中学校生徒に配付した「愛宕中家庭学習の手引き」も合わせて配付し、児童に見通しを持たせると共に、保護者への意識高揚に努めた。

（2）本校金管バンド部と愛宕中学校吹奏楽部との合同練習

合同練習の様子

本校の5，6年生の希望児童からなる金管バンド部では、例年、夏休みの最終週に練習を行い、その中で、毎年1回、愛宕中学校吹奏楽部を招き指導を受けている。本年度も8月に実施し、指導を受けている。各楽器ごとに分かれて、中学生から直接、丁寧な個別の指導を受けたり、模範演奏を聴かせてもらったりした。児童は、楽器演奏の技術が向上しただけでなく、活動への意欲を高めたり、中学校生活への期待を膨らませたりすることができた。



（3）「GOGO 郷州」のハッピー集会における愛宕中学校吹奏楽部との交流

11月の学校行事「GOGO 郷州」の中、午前のハッピー集会では、愛宕中学校吹奏楽部に依頼し、演奏の発表や本校金管バンド部との合同演奏等を披露してもらった。また、全校合唱では中学校吹奏楽部の演奏に合わせてビリーブを歌うことができ、大いに盛り上がった。

ハッピー集会の様子



（4）愛宕中学校生徒の職場体験学習を通して

4年前から始まり5度目の愛宕中学校生徒職場体験の受け入れとなった。本年度も昨年度に引き

続き 1 月に、愛宕中学校の 2 年生 4 名の生徒が本校で職場体験活動を実施した。

4 名は、本校の卒業生や、弟妹が本校に在学している生徒であり、親近感をもって熱心に取り組んでいた。2 日間、生徒と本校児童、職員との間には和やかで積極的な交流が行われた。

(5) 職場体験学習の中での「中学校生活について」のオリエンテーション

愛宕中学生徒に依頼し、職場体験学習の中で、6 年生を対象にした「中学校生活」のオリエンテーションを実施してもらった。生徒達は、実際に使用している学習道具や、パソコンでのプレゼンテーションを準備し、分かりやすく発表してくれた。児童達は、進学への不安が軽減され、中学校生活への期待感を深めることができた。

オリエンテーションの様子



(6) その他：幼稚園との連携

隣接する「みずき野幼稚園」とは、日常的にも交流がある。例年実施している幼稚園児による「ハロウィンパレード」、幼稚園年長児による「教室見学」等を通し交流を深めた。

① ハロウィンパレード＜10月＞

幼稚園の行事として、ハロウィンパレード用に仮装を凝らした園児たちが、本校の昼休みに、北門より入場し、グラウンドをパレードしながら南門へと向かって行った。かわいらしいパレードの様子を本校児童や職員が見学し、拍手を贈りながら見送った。

パレードの様子



③ 1 年教室の見学＜2月＞

みずき野幼稚園の年長児童が来校し、本校 1 年生の授業風景等を見学した。本校 1 年児童たちは、幼稚園児の姿を眺めたり、見られたりすることで、自分たちの成長を実感できた。

幼稚園児の学校見学の様子



3 今後の課題

- (1) 確かな学力の向上を目指した連携事業の施策を工夫し進める。
- (2) 学習や生活のきまり等における情報交換を一層推進する。

小中連携教育の推進

松前台小学校 教諭 鈴木 範子

1 ねらい

児童・生徒及び教職員の交流活動を通して、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高め、学ぶ意欲を育てるとともに、中学校生活への円滑な接続を図る。

2 実践

活動名	実施日	場所	活 動 内 容
小中連携教育事業準備	4月14日	守谷中学校	今年度の小中連携事業の実施計画案を第1回教育課程研修会の際に作成した。さらに、毎月の教育課程研修会においての御所ヶ丘中学校、御所ヶ丘小学校、大井沢小学校、本校の4校で行事計画の確認と情報交換を行い、小中連携を深めた。
田植え 稲刈り	5月19日 9月13日	立沢里山	「立沢里山を守る会」の方々のご協力をいただき、大井沢小、御所ヶ丘小、本校の5年生が立沢里山の水田において田植えを行った。泥だらけになりながら、里山の会の方々の指導を真剣に受け止め、苗を植える作業に没頭する姿が見られた。この作業を通して、児童は稲が実ることへの期待をふくらませ、学校に戻った。学校においても各自がバケツに稲を植え、毎日の観察と水量の調整を行った。米作りの大変さに気づいた。9月の稲刈りでは、暑さに体力を消耗しながらも、初めて持つ鎌を慎重に扱いながら、最後の一株まで刈り取ることができた。児童は、米作りの苦勞と収穫の喜びを同時に体感した。この体験を、3校児童の貴重な共通体験として、生かしていきたい。
御所ヶ丘中学校教諭による出前授業（理科）	7月15日 3・4校時	松前台小学校	御所ヶ丘中学校理科教諭である大村千博先生により、本校6年生を対象に「人工いくらを作ろう」の授業を行っていただいた。大村先生が、「アルギニン酸ナトリウムと塩化カルシウム、着色料を使い、様々な色のいくらを作ることができる」と説明すると6年生は興味深く話に聞き入っていた。分かりやすく簡潔な説明により、手順正しく実験を行うことができた。本物そっくりの形・質感の人工いくらができるとあちらこちらのグループから歓声が上がった。完成した人工いくらは一一人、空きビンに入れて大事に家に持ち帰った。家庭では、人工いくらを前に出前授業についての会話がなされたということである。児童の感想から、中学校の理科の学習に対する不安が薄れ、期待をもてたことが明確になった。

御所ヶ丘中学校教諭による出前授業（国語科）	12月1日 1・2校時	松前台小学校	御所ヶ丘中学校国語教諭である後藤早苗先生により、本校6年生を対象に古典の授業を行っていただいた。授業は、先生の分かりやすく丁寧な説明をいただきながら、「竹取物語」「枕草子」ど中学1年生の教材を使って、音読のリズムを楽しむ学習から始まった。児童は、現代文に比べるとややゆったりとした古文のニュアンスを感じ取りながら、大きな声で音読に取り組んでいた。音読の後、「竹取物語」が「かぐや姫」であることに気づいた6年生は、後藤先生の解釈を聞きながら一つ一つの言葉の意味を確かめていった。その作業の中で、今自分たちが使っている言葉が、元々はまったく違う意味として使われていたことを知り、「えーっ。」という驚きの声が上がっていた。 授業は、「季節感」の話題から「旧暦」の話に進み、自然な授業の流れの中で、難しい内容にも集中して耳を傾ける児童の姿が見られた。
母校ボランティア	12月9日 5・6校時	松前台小学校	6年生の全児童と中学1年生（本校卒業）が合同で本校校庭の側溝清掃を行った。中学生は濡れて重い落ち葉を一輪車に積み、黙々と運んでいた。そして、長い側溝がみるみるきれいになった。中学生のパワーと一生懸命な姿に大きな成長を感じた。清掃後には、6年生が中学1年生から中学校生活について話を聞く時間を設定した。6年生は、話を聞きながら中学校生活を具体的に想像することができた。この活動を通して本校6年生の児童は、目標となる中学生の姿を確かめることができた。
部活動見学	1月21日	御所ヶ丘中学校	御所ヶ丘中学校の入学説明会において、部活動見学をさせていただいた。生徒会役員の生徒により運動部や文化部を丁寧に案内され、真剣な練習の様子を6年生は食い入るように見ていた。部活動選択において、貴重な情報を得る場となった。

3 考察

小中連携推進事業の様々な活動を通して、児童は中学校生活に対する不安を解消しながら、学習の目的をもち、学習への意欲を高めることができた。特に、御所ヶ丘中学校の先生による2回の出前授業において、中学校での授業への期待を高められたことは大きな成果であった。また、これまで自分たちが学習してきた内容の広がりを感じて取って、小学校での学習の大切さを再認識することができた。4校が連携を図って行う体験には「新しい発見」がたくさんあった。互いの立場を理解し、助け合うこの態度をもちながら、児童一人一人が充実した中学生活をおくるために、さらに交流を深めていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 皆川 彰

1 小中連携のねらい

本校では「豊かな心をもち、自ら課題をみつけて学習し、健康でたくましく生きる子どもを育てる」の学校教育目標のもと、中学校について児童や小学校保護者が知ることにより、保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き、夢と希望にあふれる進学を実現するため小中連携の交流活動が進められてきている。この活動を通して児童・生徒が交流活動を「継続的に」行うことで、児童・生徒に生きる力を育むと共に、確かな学力を身につけることを目標に取り組んできた。

2 実践計画

月 日	内 容	対象者・協力者
5月21日	平成22年度小中連携についての打合せ	けやき台中担当者
6月21日	あいさつ運動	けやき台中生徒会 本校保護者
9月 6日	あいさつ運動反省	けやき台中担当者
10月14日	母校ボランティア、吹奏楽部鑑賞会打合せ	けやき台中担当者
11月 6日	吹奏学部鑑賞会	けやき台中吹奏楽部
11月12日	母校ボランティア	けやき台中1年生
11月 4日	あいさつ運動打合せ	けやき台中担当者
11月15日	あいさつ運動	けやき台中生徒会 本校保護者
1月18日	中学校説明会および部活動見学会打合せ	けやき台中担当者
1月21日	中学校説明会および部活動見学会	けやき台中学校

3 実践例

(1) あいさつ運動

(けやき台中学校との交流)

本校正門 7時50分から8時10分本校では、校長、職員、5・6年担当児童によるあいさつ運動を毎朝行っている。その中で、6月、11月に「さわやかマナーキャンペーン」として協力保護者、けやき台中学校の生徒会役員、本校児童、本校職員が中心になってあいさつ運動を行った。



保護者、中学生とのあいさつ運動

(2) 吹奏楽部鑑賞会

今年度は、松ヶ丘まつりにけやき台中学校の吹奏楽部に学校に来ていただき、演奏を鑑賞した。全校児童が中学生の演奏を聴くことができ、大変に貴重な経験をすることができた。中学校のすばらしい演奏に特に6年は中学校への進学が身近に感じたようである。



けやき台中吹奏楽部の演奏

(3) 母校ボランティア

本校を卒業した、けやき台中学校1年生が来校して、本校6年生とボランティア活動を行った。また、ボランティア活動の後に昨年卒業した中学1年生から実際の中学校の様子を聞いたり、質問をしたりすることで中学校をより身近に感じる良い機会であった。



中学生との懇談

(4) 中学校説明会

及び部活動見学会

新入生保護者説明会と同時に、入学予定の6年生に対して、守谷中学校、けやき台中学校の生徒会のみなさんから中学校の生活の様子などについて紹介していただいた。また、説明後に部活動見学を行った。部活動を見学して、自分たちが入学してからどの部活動に参加しようか一人一人が考えたようである。



けやき台中学校説明会

4 成果と課題

(1) 成果

小中連携推進事業では、中学校の生徒会役員といっしょにあいさつ運動などを行うことで、児童が中学校を身近に感じるとともに、地域の方々にも積極的にあいさつをしていこうとする意欲付けになってきている。また、毎年行っていることで、中学生との交流が楽しみになっているようである。

中学校の新入生説明会、母校ボランティアでの交流活動を通して、6年生と中学生の心の絆を深め、夢と希望をもって中学進学を目指す活動になった。6年生には来年は自分たちが小学校でボランティア活動を行うという気持ちを持って終わることができ大変に有意義な活動であった。

交流活動全体を通して「中学校が楽しみ」「中学校の授業を受けたい」「部活動が楽しみ」など中学校への興味・関心が高まったのではないかと考える。今後も学ぶ意欲、豊かな心を育てることができるよう、さらに交流活動を推進していきたい。

(2) 課題

中学校との連携も毎年行い、交流活動は定着してきている。しかし、マンネリ化にならないように、中学校と連携をしながら新しい試みをしていくことも大切である。中学校の授業を体験してみることで中学進学への意欲付けなどになるのではないだろうか。また、ホームページなどを利用して保護者や地域の方々への情報発信を今まで以上に進めていきながら、地域に開かれた学校をより一層進めていきたい。

小中連携教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 荒井 弘勝

1 はじめに

中学校における「中1ギャップ」が問題視されるようになり、多くの中学校が小中連携に本格的に取り組んでいる。生徒指導や安全管理にかかわる情報交換、小学生の体験入学、学校行事や授業の合同実施など特色ある取り組みが求められている。小学校と中学校が協力して子どもを育てていくべきであるという認識をもつことが重要になっている。

小中連携では、まず、学力向上の観点から小中9年間の学びの連続性を踏まえた確かな学力を身につけさせることがあげられる。次に生徒指導の立場から、小中学校間の交流を深めることで中学校入学への不安を解消し、接続の円滑化を図り、一貫した指導方針や指導内容によって小学校と中学校での学校生活でのとまどいを解消することが求められる。そして、児童生徒の交流を通して、各々の自尊心や向上心を育て、豊かな人間性や社会性を身に付けさせる一助とするものである。さらに教職員間においても相互理解を充実させ、小・中学校の教員が相手の取組を理解し、相互に刺激を受けることに連携の意義があると考ええる。

そこで、小中連携の意義を踏まえて特色ある教育課程の編成と創意と活力に満ちた学校づくりを推進するため、具体的な施策を工夫しながら以下のような取り組みを進めてきた。

2 実践

(1) 黒内小学校・大野小学校との連携

ア 「守谷中学校区家庭学習のてびき」の取り組みについて

本年度は、家庭学習の在り方を校区全体で統一を図り、具体的学習方法としてまとめる「守谷中学校校区家庭学習のてびき」案を作成した。これは、家庭学習を習慣づけることで基礎学力の向上を義務教育の九年間を見通して実践することをねらいとしている。家庭学習習慣の円滑な接続を促すことで、「中1ギャップ」解消を図っていきたいと考えた。てびきの内容としては、家庭学習の心構え、学習の基本的なルール、生活のリズムの在り方、各教科の具体的な学習方法を示すことにより、自分から学ぼうという意識を高めるものである。

10月28日（水）に、本校において「守谷中学校区小中連携会議」を大野小、黒内小の教務主任とともに実施した。その際、家庭学習のてびきを校区で実施するための有意義な話し合いがもたれた。本校ではさらなる、てびきの推進策として、校内研修において学力診断テストなどの分析をふまえて教科マニュアルの作成を行った。さらに「学習状況アンケート」を学期ごとに実施し、学校や家庭での学習状況調査を行い、分析して家庭学習指導に生かすことができた。今後も学力向上の観点から、校区の小中学校との連携を深めて行きたいと考えている。



イ 中学校授業参観及び部活動見学会

小学生が普段の中学校の様子を直接触れる機会として。7月15日(木)に、大野小学校と、黒内小学校の全児童を対象に守谷中学校授業参観及び部活動見学会を実施した。例年、中学校教師の授業特別に編成して、生徒と児童に受けさせるという形態の交流を実践していたが、より自然な中学校の様子を知るために授業参観を行うというものになった。来校した児童には「中学校訪問始まりの会」と「中学校訪問終わりの会」を運営させ、自らが授業参観に積極的に関われるように意識を高める工夫をした。児童は落ち着いた様子で各教室の授業参観を行うことができていた。授業参観後の部活動見学では、生徒会役員が先導して児童をすべての部活動に案内した。中学校での運動部や文化部の本格的な活動に触れ、中学校入学後の期待をさらに膨らませているようであった。小学生はどのようなことを感じているのかをつかむため、児童が今回の体験を通して感じたことをまとめた感想カードを記入してもらい、生徒会に紹介することで、自らの励みとするとともに、次年度さらに充実した小中交流を深める情報とした。

先輩！ありがとうございました！

先日は、中学校を見学させていただきました。ありがとうございます。私は守谷中学校を見学するのは初めてでした。授業は、むずかしくて厳しいイメージがあったけれど、中学校の先輩方が楽しそうに授業しているのを見て、少し安心しました。私はずっと中学校の授業が心配でした。でも、授業の様子もよく分かりました。部活動見学ではいろいろな部活動を見学しました。私は今、吹奏楽部がテニス部で迷っています。でも、自分に合った部活を選ぼうと思います。先輩方、本当にありがとうございました。

ウ 守谷中学校吹奏楽部による出張演奏の実施

児童に大変好評であるという点から、小学校の強い要望があった、黒内小学校と大野小学校への出張演奏を本年度も実施した。10月30日(土)の黒内祭りでは、吹奏楽部の演奏のすばらしさもさることながら、限られた時間内に、協力して準備を整える部員の姿に、多くの小学生たちが感銘を受けていた。11月6日(土)の大野小収穫祭でも、すばらしいパフォーマンスに多くの児童が感動していた様子であった。今後は、小学校の近所である守谷市中央公民館で、本校美術部が行っている作品展においてギャラリートーク等を実施し、芸術関連の小中の連携を深めていきたいと考えている。



(2) 守谷小学校との連携

本年度も11月13日(土)の県民の日に「守谷駅あいさつ運動」を守谷小学校と共催で実施した。本年度は、本校生徒たちの関心も高く、小学生とあわせ約90名の参加が見られた。双方にとって、小中協力して地域の方々へあいさつの輪を広げる有意義な活動になった。



3 成果と課題

小中連携の必要性が重要視される背景には、中1進学時に学習面でつまずく生徒が多く見られるという問題がある。本校でも、勉強の仕方が具体的にわからないという生徒が少なからずいる。これらの課題に対してガイダンスなど導入期教育に力を入れているが、中1ギャップは小学校と中学校の生活面や学習面の違いにより起こる問題のため、中学校だけで課題を解決していくには限界がある。小学校および地域全体と連携してこの問題に取り組むことが、今後ますます求められると考えられる。校区の小中学校が連携して家庭学習の在り方を検討していくという校区「家庭学習のてびき」の取り組みは、なかなか成果として表れづらいものであると考えられる。しかし今回の検討会議をきっかけに、前向きな意見が出されたことは大きな前進であると考えられる。今後も、既存の小中連携に留まらず児童生徒の確かな学力を小中連携の立場から支えていく取り組みを推進していきたいと考えている。

小中（含幼保）連携教育の実践

守谷市立愛宕中学校 担当 内田 有一

1 小中連絡協議会

6月13日(金)及び平成23年3月23日(水)の2回実施した。

第1回目6月13日の連絡会では、守谷小・郷州小の旧担任及び生徒指導主事が来校し、1年生の授業参観(5校時)を行い、6校時に協議会を行った。

協議会では、特に配慮を要する生徒の対応に関して、中学校の担任より小学校時の行動に関する質問があり、指導に有益な情報を得ることができた。

第2回目3月23日(水)では、新入生に関する情報を小中の教員で共有した。特に学校不適応の生徒に関する情報に関して、詳細な質問がなされた。

近年の研究では、平均して10%の発達障害、14%の境界知能の子どもがいるとされている。これらの子どもたちが中学生になる際、学級担任制によるサポートから教科担任制において自立を求められることにより、適応に困難を生ずるのが中1ギャップの1つと考えられる。

小中連絡協議会は、こうした生徒を早く見つけ、適切な指導を行うための情報を共有できる機会である。

2 保育園実習Ⅰ（まつやま保育園）

10月28日(木)、11月5日(金)、12月8日(水)に保育実習を行った。

3年生が各クラスごとにまつやま保育園を訪れ、3歳～5歳児を対象に保育を行なった。幼児との交流を通して、子どもを世話すること喜びや子育ての意義を学んだことが、終了後のレポートから読み取れた。

兄弟が少なく、子ども同士 のふれあいが少なくなりつつある現代の中学生にとって、貴重な体験であるといえる。

また夏休みに希望生徒10名が7月17日(土)が保育園の夏祭りボランティアに参加した。ゲームコーナーの運営を任され、ゲームの企画や景品作りを行った。景品のバルンアートは園児から好評であった。



3 器楽指導（愛宕中学校吹奏楽部）

郷州小学校金管クラブと愛宕中吹奏楽部の交流会を平成20年8月28日(木)に豪州小学校において実施した。

小中連携の一環として、吹奏楽部が児童の器楽演奏の向上のため小学校に行き、実演と指導を行った。小中のこうした交流は、中学校における部活動の実際を児童に伝えることのできるとともに、異年齢の子どもたちが触れあうよい機会となった。

4 学校行事への案内

(1) 愛宕中学校体育祭

平成22年9月11日(土)に実施した体育祭では、愛宕中学校区の小学生に参加を呼びかけるためのポスターを配布した。体育祭の中で、共に競技できるよう子どもから大人まで参加できる種目を取り入れた。

(2) 愛宕中学校歌詠祭（文化祭）

平成22年10月23日(土)に実施した文化祭では、愛宕中学校区の小学生を招待するなど、広く参観を呼びかけた。多くの親子一緒に参加する小学生がみられた。

入学後の新入生からは、小学校の時に見学した体育祭や文化祭を楽しみにしている声がよく聞かれる。行事の見学を通して中学校へのあこがれを感じる小学生は多く、意義のある交流であるといえる。

5 GOGO 郷州ハッピー集会への参加

平成22年11月6日(土)に郷州小学校祭(GOGO 郷州)に愛宕中学校吹奏楽部が参加し、演奏を披露したり、合同演奏を行った。

小中の交流は、小学生の接し方を学ぶことで、中学生に社会性を身につけさせるよい機会となった。



6 小中連携で学力を向上する

学力向上の観点から、小中連携で何ができるかという問題意識をもって本年度試行した。1つはそれぞれの学校の計画訪問を授業参観する試みである。小学校では、どのような学習が行われ、児童はどのような取り組みをしているのか把握することにより、中学校の指導の見直しを行おうとするものである。

特に小学校経験のない職員には、小学校の教育をみることで学ぶことが多かったとの意見がみられた。

また、2つの小学校における学習のきまりを踏まえて、中学校の指導に生かしていく来年度の構想を話し合うことができた。小学校では、発表の技能、ノートの取り方の技能が明確化されており、職員が情報を共有して指導に当たるという体制ができている。これに学び、中学校でも学習技能の継承、発展をしていきたいと考えている。

また学区内2つ小学校と共同で、「学習の手引き」を作成した。

学習手引きは以下の効果が期待できる。

- ・生徒が学習の見通しを持つことができる。
- ・生徒が職員と学習を相談する際、共通の言葉で話しあうことができる。
- ・生徒が評価規準を知ること、具体的な努力目標を持てる。
- ・小学校と連携して作成することで、学区内に通わせる保護者に一貫した学習指導の情報を提供できる。
- ・職員が小中学校で一貫して育てる学習技能を共通理解することができる。

来年度は、学習手引きを活用し、学習の相談を行ったり、テスト学習の指導を行い、学力向上が実現できるようにしたい。

7 新入生・保護者説明会

1月23日(金)午後3時～午後4時30分に本校において、来年度の本校入学予定者の新入生と保護者を対象に説明会を実施した。

生徒会役員と学級委員が小学生を対象に、中学校の学習や生活等について紹介をしたり、実際に授業参観をした。また、質疑応答の時間では、小学生から活発な質問がされ、中学校入学前に、中学校生活に関する理解を深めることができたと考えられる。

生徒会役員と学級委員、各部部長、PTA役員、職員が保護者対象に中学校の学習や生活、部活動等について説明をした。また、入学式や諸準備物、入学に関わる手続き等について伝えた。本年度は、部活動の部長によるスピーチを試みた。こうした説明は、職員よりも生徒による方が保護者の反応がよい。いずれも保護者に好評であった。



小中連携教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 山本 修

1 はじめに

小中連携教育をはじめて8年目となった。活動も定着し、日常の教育活動の感覚で実践がなされている。今年度は、交流担当者の工夫をより尊重することで、担当者が意欲的に実践し、しかも無理なく活動が実践できるようにしてきた。また、「中一ギャップの克服」をより意識した実践を行うようにしてきた。

2 実践のねらい

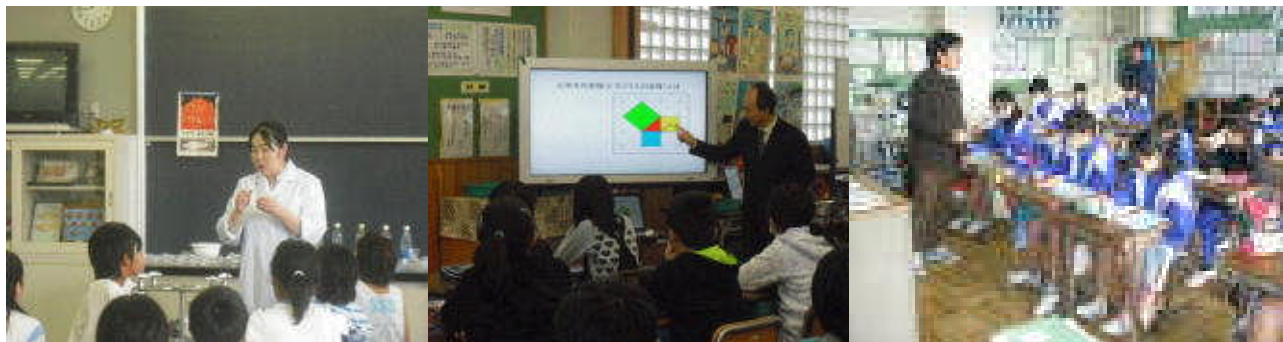
- 児童・生徒の交流活動，教職員の交流活動を「継続的に」行うことを通して，児童・生徒の学習に対する興味・関心を高め，学ぶ意欲を育てるとともに，豊かな心をはぐくむ。
- 交流活動を通して，中学校（生徒の様子，授業の様子，施設，中学校の先生など）について児童や小学校保護者が知ることにより，保護者と小学生の中学校生活に対する不安を取り除き，夢と希望にあふれる進学を実現する。
- 「中一ギャップ」の克服を目指し，交流活動を通して小中の円滑な移行を実現する。

3 実践のポイント

- 「交流の継続性」を重視した活動内容・交流方法の検討
 - ・ 4校の地理的条件（1校が隣接，2校が遠距離）を考慮した実践
 - ・ 連携のために特別に年間のカリキュラムを組み直したり，大きな負担を児童・生徒・教職員に強いったりすることのない実践
 - ・ 同じ実践をより合理的・効率的に行う工夫
- 学ぶ意欲を高める交流活動の在り方
 - ・ 中学校教師による出前授業 ・ 小・中合同授業（母校ボランティア）
 - ・ 中学生の作品等の学習成果の活用（総合学習レポート，美術作品の展示）
- 豊かな心をはぐくむ交流活動の在り方
 - ・ 小・中合同授業（吹奏楽部の演奏） ・ 手紙による交流
- 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動の在り方
 - ・ 中学校教師による出前授業 ・ 小・中合同授業（母校ボランティア）
 - ・ 小学校保護者への授業公開 ・ 学校説明会，部活動見学会（小学生の参加）
- 「中一ギャップの克服」の実現に向けた活動内容・交流方法の検討
 - ・ 小学生と中学生の懇談会による「中学校生活について」というテーマで懇談をし、中学校生活への不安の解消を図った。

4 活動の概要

- 中学校教師による出前授業
・理科の出前授業（松前台小） ・数学科の出前授業（大井沢小） ・国語科の出前授業（御所小）



- 中学校での授業体験
 - ・ 社会の授業体験 （御所ヶ丘小）



- 吹奏楽部の小学校での演奏会（大井沢小）



- 母校ボランティア



- 小学生を招いての入学説明会



5 成果

- 学ぶ意欲を高める交流活動に関して
 - ・ 中学校教師による出前授業（理科，数学科，国語科），中学生の総合学習レポートの展示を無理なく実施できた。
 - ・ 出前授業では，専門性を生かした授業，機器を駆使した授業の実践により，「授業を楽しい」「興味をもった」という児童の感想が聞かれ，出前授業実施教科への学習意欲が高まった。
- 豊かな心をはぐくむ交流活動に関して
 - ・ 吹奏楽部による小学校での演奏活動，母校交流（中学生から小学生への手紙）が無理なく実施できた。
 - ・ 小学生を招いた入学説明会では中学校の生活の仕方、中学校の学習などについて生徒会の役員が中心となって説明した。説明会のあと小学生は中学生の案内で部活動の見学を行い，見学するに当たっては「優しい気持ち」になって小学生と接することができた。
- 夢と希望にあふれる進学を実現する交流活動に関して
 - ・ 小学校保護者への中学校の授業公開では，中学校の様子を見てもらうことで保護者の不安を取り除くとともに，建設的なご意見もいただけるようになり，入学前であっても協力してよりよい教育活動を実現するための関係づくりにつながるケースも出てきた。
- 「中一ギャップ」の克服を目指し，交流活動を通して小中の円滑な移行を実現する。
 - ・ 社会の出前授業では，「中学校で必要となる小学校の基礎を自覚させたい」との授業担当者の願いから，昨年までの「楽しさ」を感じさせることを優先した授業から転換がはかられた。「楽しい」と感じさせるだけでは，中学校の授業に「幻想」を持たせることにもなり，入学前は授業を楽しみにしていても「現実違った」ということになりかねない。「中一ギャップの克服」を重視し，「現実の中学校の授業を体験させること」に視点がおかれた授業が実践されたことは大きな成果であった。

6 今後の課題

「夢と希望にあふれる進学」の実現とともに「中一ギャップの克服」の実現に迫る，交流内容・方法等について工夫・改善を図る。

小中連携教育の実践

けやき台中学校 担当 黒川 孝 男

1 はじめに

本校へは高野小学校と松ヶ丘小学校の2校から入学してくる。児童・生徒の「生きる力」の柱となる「豊かな心」と「確かな学力」を育むために小中連携事業を本年度も実施した。小学生が中学校に対して抱く不安を取り除き、期待とやる気を膨らませることが「連携」の大きな目的の1つである。小学生にとって中学生を見て「あんな先輩になりたい」という願いを持てるようになる機会であれば最高である。可能なことはできる限り様々な活動を通して、多くの児童が夢と希望を胸に中学校に入学してくれることを期待している。

2 実践

(1) 小中合同あいさつ運動

	第1回小中合同あいさつ運動	第1回小中合同あいさつ運動
日 時	6月21日(月) 7:50~8:10	11月15日(月) 7:50~8:10
場 所	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)	高野小学校(プール側門付近) 松ヶ丘小学校(正門付近)
参加者	小学校代表児童 職員 中学校生徒会役員, 中央委員, 職員	小学校代表児童 職員 中学校生徒会役員, 中央委員, 職員
内 容	生徒の代表者と職員が, 高野小学校, 松ヶ丘小学校に出向き, 小学生と一緒に登校時にあいさつ運動を行った。	



(2) 吹奏楽部演奏会

	高野小学校	松ヶ丘小学校
日 時	7月 9日(金) 14:00~15:15	11月 6日(土) 10:30~11:30
場 所	高野小体育館	松ヶ丘小学校体育館
参加者	高野小4, 5, 6年生 保護者 吹奏楽部生徒, 職員	松ヶ丘小全校児童 保護者 吹奏楽部生徒, 職員
内 容	吹奏楽部の生徒が高野小を訪問し約1時間の演奏を発表した。一部で小学生にも参加してもらった。	松ヶ丘小の「松小まつり」のプログラムの中に組み込んで, 本校の吹奏楽部の演奏を発表した。



(3) 母校ボランティア

日 時	11月12日(金) 14:00～15:30	
場 所	高野小学校	松ヶ丘小学校
参加者	小学校：6年生 中学校：1年生	小学校：6年生 中学校：1年生
内 容	自分の出身小学校へ出向いて、小学校6年生と一緒に愛校作業(清掃)を行ったり、中学校の様子をグループごとに発表した。	

(4) 小中連絡会

日 時	6月17日(木) 14:30～	
場 所	けやき台中学校	
参加者	高野小学校、松ヶ丘小学校：旧6年担任、生徒指導担当 けやき台中学校1年担当職員	
内 容	小学校職員による授業参観、小学校、中学校職員による生徒指導上の情報交換を行った。小学校卒業時の引き継ぎでの連絡された事項についての再確認の意味でも意義が大きかった。	

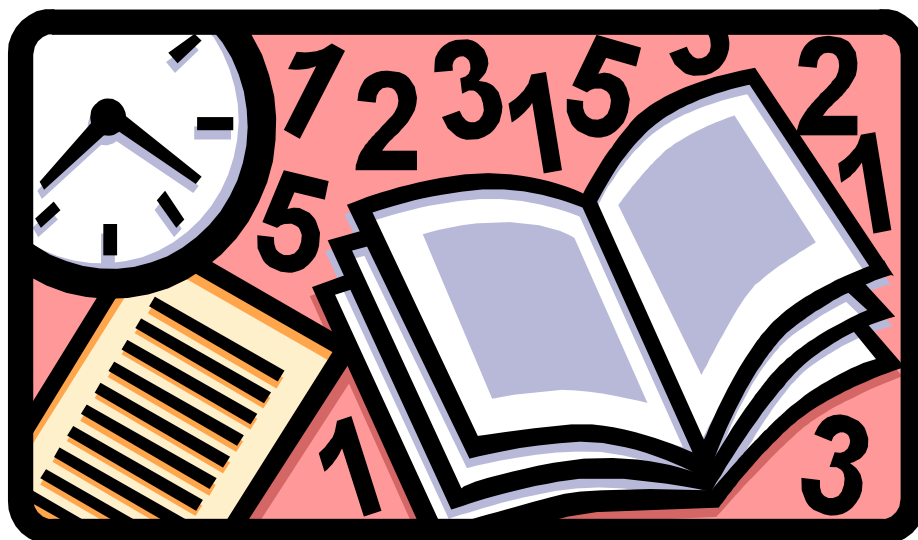
(5) 新入生学校説明会

日 時	1月21日(金)	
場 所	けやき台中学校体育館	
参加者	高野小学校、松ヶ丘小学校：6年生、担当職員 けやき台中学校：生徒会本部役員、吹奏楽部、2年1組生徒、担当職員	
内 容	生徒会役員による学校行事などの説明、吹奏楽部の演奏、2年1組生徒による合唱が行われ、その後、生徒会役員の案内で6年生に部活動の見学をしてもらった。	

3 考察と課題

今年度、計画された事業はすべて実施することができた。しかし、毎年同じことばかりというマンネリ感も否めない。今後は中学校教師が小学校に出向いての「出前授業」を行ったり、他校の取り組みを参考にしたり、あらたな連携を模索して、深まりのあるものしていきたい。

**指導室事業実績
委嘱関連一覧
教育論文応募一覧**



平成 22 年度指導室事業実績

訪問に関すること

1 計画訪問

学校の課題及び市学校教育への取組み状況の把握と援助・指導

(※ 研究指定校にあつては指定校訪問を兼ねる) < 県南計画訪問同行 >

大井沢小学校	11月15日(月)	5月14日(金)	(日本語指導訪問)
大野小学校	5月19日(水)		
高野小学校	7月1日(木)		
守谷小学校	6月1日(火)		
黒内小学校	10月1日(金)		
御所ヶ丘小学校	10月25日(月)		
郷州小学校	10月8日(金)	11月11日(木)	(特別支援集合指導)
松前台小学校	6月25日(金)		
松ヶ丘小学校	10月29日(金)		
守谷中学校	11月25日(木)	9月24日(金)	(特別支援新設校訪問)
愛宕中学校	11月9日(火)		
御所ヶ丘中学校	5月26日(水)	11月19日(金)	(生徒指導訪問)
けやき台中学校	9月22日(水)		

2 指定校訪問

研究指定校への支援・助言

2 年次	大野小学校	10月19日(火)	研究発表会
		6月22日(火)	
1 年次	御所ヶ丘中学校	11月26日(金)	研究発表会
		6月17日(木)	
	高野小学校 守谷小学校	10月12日(火),	1月31日(月)
		10月20日(水),	11月24日(水)
		12月9日(木),	1月26日(水)
		2月7日(月)	

3 教育委員会合同訪問

各校の経営の概要や課題及び要望等の把握

5月14日(金)	第1回	守谷小, 黒内小, 松ヶ丘小, 守谷中
5月25日(火)	第2回	郷州小, 愛宕中, 給食センター
5月27日(木)	第3回	大野小, 高野小, けやき台中
6月2日(水)	第4回	大井沢小, 御所ヶ丘小, 松前台小, 御所ヶ丘中

4 要請訪問

各学校や教育研究会研究部の要請に応じて行う援助・指導

校内研修	7月30日(金)	大井沢小学校
校内研修	8月20日(金)	けやき台中学校
市教育研究会生徒指導研究部研修	8月5日(木)	御所ヶ丘中学校
市教育研究会学級経営研究部研修	8月5日(木)	黒内小学校

市教育研究会総合的な学習の時間
校内研修

8月 5日(木) 守谷中学校
2月 4日(金) 御所ヶ丘小学校

委員会活動に関すること

5 外国語活動推進委員会

外国語活動の積極的推進とALT活用に関する研究協議及び研修

5月12日(水)	第1回	今年度の活動方針確認
7月 7日(水)	第2回	小学校授業研究(高野小学校)
9月29日(水)	第3回	中学校授業研究(愛宕中学校)
2月 2日(水)	第4回	小学校授業研究(黒内小学校)

6 情報教育推進委員会

学校情報教育推進計画の策定及び情報教育の推進

5月27日(木)	第1回	今年度の活動計画
10月 4日(月)	第2回	授業研究会(愛宕中 内田先生, 倉持先生)
2月 1日(火)	第3回	今年度のまとめと次年度への課題

7 社会科副読本編集委員会

社会科副読本の活用に関する研修

6月18日(金)	第1回	今年度の活動計画, 副読本活用の方策の検討
8月11日(水)	第2回	評価テスト, ワークテストの改訂 追加ページ作成
2月 8日(火)	第3回	今年度のまとめと次年度への課題

8 生徒指導対策委員会

生徒指導に関する研修

7月13日(火)	第1回	各校の現状と課題についての協議
12月10日(金)	第2回	不登校対策研究協議会 ＜講師＞ 茨城県カウンセリングアドバイザー 水口 進 先生
2月16日(水)	第3回	本年度のまとめと次年度への課題

9 就学指導委員会

障害のある児童・生徒の早期発見と適正な就学, 指導についての協議, 判定

6月21日(月)	第1回	在籍児童生徒の判定及び今年の活動について
11月18日(木)	第2回	未就学, 在籍児童生徒の審議と判定
1月20日(木)	第3回	未就学, 在籍児童生徒の審議と判定, 平成23年度の就学予定の確認

研修等に関すること

10 教育相談研修講座

事例検討, ロールプレイによる教育相談についての基礎研修

7月28日(水)	＜講師＞	スクールカウンセラー 榊原 秀人 先生
----------	------	---------------------

11 コンピュータ活用研修

コンピュータの活用に関する実技研修

8月 3日(火) 会場 守谷中学校 Wordの基礎
エクセルの活用
プレゼンテーションソフトの利用

12 市人権教育研修会・市巡り研修

市人権教育に関する理解啓発のための研修，市の歴史及び施設の理解

8月 2日(月) 初任者・新規転入者への人権教育研修及び市施設等の理解

13 市初任者・新規転入者研修

初任者・新規転入者の資質向上のための研修

4月15日(木) 守谷市の概要，学校教育について

8月 2日(月) 初任者・新規転入者への人権教育研修及び市施設等の理解

14 生き生き学校づくり研修

生徒自らが学校生活改善を目指した活動を行うことを通して，生徒の規範意識や社会性の向上を図るための研修

7月28日(水) <講師> 江戸しぐさインストラクター 鶴見 泉 先生

その他の業務に関すること

15 保幼小中連絡協議会関係

学校種間ごとの連携

・保幼小連絡協議会 12月 7日(火) 黒内小学校
・小中連携教育推進事業 <中学校と学区内小学校との交流活動> 随時

16 市生徒指導連絡協議会及び市豊かな心育成推進協議会

生徒指導及び豊かな心育成に関する関係諸機関との連携，情報交換

6月29日(火) 総会及び警察署，県少年指導委員他関係団体との懇談

17 特別支援学級担当者・療育教室・伊奈養護学校連絡会議

障害のある幼児，児童に関する情報交換及び指導に関する協議

6月16日(水) 第1回 市，療育教室，伊奈養護学校及び各校の特別支援教育の取り組み

11月17日(水) 第2回 指導上の諸問題，悩み等への対応についての研修

1月27日(木) 第3回 事例検討

平成２２年度 委嘱関連事業等一覧

学校名	委嘱名等	委嘱等団体	年次	備考
大井沢小学校	公園里親事業 小学校理科支援員配置事業 特色ある学校推進事業	市役所 県教委 市教委	9 単年 単年	
大野小学校	公園里親事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 市教委・市教研	9 2	
高野小学校	公園里親事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校 いばらき子どもヘルパー事業	市役所 市教委・市教研 県社会福祉協議会	9 1 単年	
守谷小学校	公園里親事業 オリジナルティーディングプラン事業 森林愛護運動推進事業「緑の少年団」 市教育委員会・市教育研究会研究指定校	市役所 市教委 県農林水産部 市教委・市教研	9 単年 1 1 1	
黒内小学校	公園里親事業 愛鳥モデル指定校	市役所 県南地方総合事務所	9 2	
御所ヶ丘小学校	公園里親事業 地域で支える学校づくり事業	市役所 市教委	9 単年	
郷州小学校	公園里親事業	市役所	9	
松前台小学校	公園里親事業	市役所	9	
松ヶ丘小学校	公園里親事業 特色ある学校推進事業	市役所 市教委	9 単年	
守谷中学校	公園里親事業 地域で支える学校づくり事業	市役所 市教委	9 単年	
愛宕中学校	公園里親事業	市役所	9	
御所ヶ丘中学校	公園里親事業 市教育委員会・市教育研究会研究指定校 オリジナルティーディングプラン事業	市役所 市教委・市教研 市教委	9 2 単年	
けやき台中学校	公園里親事業 特色ある学校推進事業	市役所 市教委	9 単年	

平成２２年度 教育論文応募者一覧

氏名（学校名）	論文主題	応募先	備考
江尻 佳之 稲葉 英美 大野小学校	小学校算数科における共同学習のあり方 ージグソー学習，ペア学習を用いた学習指導の工夫を通してー	弘済会	
鈴木 理菜 高野小学校	伝え合う力を育てる書く活動の在り方 ー第３学年「中心をはっきりさせてせつ明しよう」における学習過程の工夫を通してー	茨城県 教育研 究会	
倉岡 正英 松ヶ丘小学校	運動の楽しさや喜びを味わいながら体力を高める 児童の育成 ー小学校第６学年体育科「体づくり運動」で「分かること・かかわること・できること」における言葉かけと場の工夫を通してー	茨城県 教育研 究会	
小林 優子 松ヶ丘小学校	図画工作科における「読解力」の向上を図るための 授業の実践 ー小学校第６学年「見つけて・感じて・あらわそう」における鑑賞活動を通してー	茨城県 教育研 究会	
廣瀬 幹郎 愛宕中学校	数学のよさを感じ取り数学的思考力を育てる学習 指導の在り方 ー既習の数学を基にして発展させる数学的活動を通してー	茨城県 教育研 究会	

平成 2 2 年度

守 谷 市 の 学 校 教 育

発 行

平成 2 3 年 3 月

発行所

守谷市教育委員会
事務局 指導室